



「輝いている人」  
「惹きつける人」  
に共通した特徴

先日、パフュームのライブのためだけに、大阪に行ってきました。ただ、僕は「パフューム」をあまり知りません。あまりと言うか、まったくと言っていいほど知りません。大切な友人から「一緒に行かない？」と誘われたんですが、ちょうど入れたい仕事があったとはいえ、

名前もわからない、  
歌も一曲もわからない、  
何に期待していいのかもわからない、  
女子3人のユニット、くらいしかわからない、

そんな人たちのライブにわざわざ大阪まで行くか？・・・とか思いつつ、まあ息抜きしよう、などと思って行きました。

結論から言うと、骨抜きにされました。

息抜きだと思って行ったら“骨”抜きにされてしまったという話なんですが、まあ、わかりやすく言うと、好きになってしまったわけです。何て言うかこう、アーティストとして、素人ながらにですが評価したい点は色々あってですね・・・むむ、まあそれはいいか。

それで一つだけ。せっかくなので、今回のライブを通して改めて感じたことをシェアしたいと思います。

興味皆無だったパフュームのライブを見て

## 「輝いて見える成功者」「人を惹きつける成功者」に共通する

### 最大の特徴の一つ

なるものが明確にわかってしまったので、それをシェアしようという話です。

## 【目次】

1. AUN が好きになる人
2. 二つのステップ
3. B'z が長期的に売れている理由

## 1. AUN が好きになる人

結論から言うと、僕は、誰かの

### “『今ここ』を正在ている瞬間”

を見ると、大概その人のことが“好き”になってしまうらしいです（「人として」ってことです）。

んで、さらに、

### 己自身の『今ここ』にとどまらず、そこからバイラルを巻き起こし、より多くの人たちをもその領域へと誘える

そんなイカした影響力を持った人を見ると、僕の中で、尊敬や憧れといった類の感情を包括した“大好き”が発動してしまうのだ、ということがわかりました。今回見たパフュームの“それ”は、とても、とてもクオリティが

高かった。

彼女たちの『今ここ』は最高のクオリティだったし、会場にいるすべての観客がそれに巻き込まれ、少なくともその瞬間だけは、『今ここ』を生きていたはずです。じゃないと、あの一体感は成立しない。

パフュームに限らずですが、何かを表現することで成功している人というのは、『今ここ』のクオリティが高いです。

## 『今ここ』がスキル化

しているわけです。

なんか、今ここ今ここ言い過ぎですが、それは我慢してもらおうとして(笑)、ここで言ってる『今ここ』の意味や感覚がよくわからない人もいます。

僕は、『今ここを生きる』というのは、

## “その人が本来持つパフォーマンスを最大限発揮できるスキル”

だと思っています。

「ランナーズハイ」なんかは、その究極系だと言っていいのかなあ、と。PCのキーボードにヨダレが垂れているのにも気づかない程作業に没頭してる時の僕も、この類でしょうか(笑)。

子供がいい例ですね。子供ってあれだけ小さな体であんな長時間激しく動き回れるんですが、冷静に、大人である僕らの視点から見ると、ちょっと考

えられないわけです、体力的に。

あれって何かというと、

## “過去にも未来にもエネルギーが分散していない、奪われていない状態”

だと言えます。

本領を発揮できている状態なんですね。つまり、『今ここ』スキルが高いってこと。

例えば、僕の息子は今5歳ですが、思いっきり叱り倒した後、少しの間はいじけていたりするのですが、泣き止むや否や、何事もなかったかのようにおもちゃ片手に僕のもとへと寄り添ってくるわけです。僕はというと、「むむ、どうやって機嫌を取ろうかなあ・・・」なんてことをひたすら考えてたりするんですが、僕が過去にうじうじしてる間、彼は既に、『今ここ』に戻ってるんですね。

多くの大人は、多少なりとも

## 過去の失敗やトラウマ、未来への不安や恐怖に縛られている状態で生きている

わけです。

そういう状態が強い人ほど、使えるエネルギーが分散し、「今ここ」に集中することができない。つまり、本来持つ力の半分・・・どころか、数分の一も出せていないということが往々にしてあります。

例えば、使えるエネルギーが100あるとすると、過去に30、未来に30持っていかれてたとすると、『今ここ』に使えるエネルギーは40です。40使えてればまだいい方なんじゃないかな。大変な人になると、過去に60、未来に35。で、『今ここ』に5とか。

まあ、とにかく、

## 僕が惹きつけられ好きになってしまう『今ここ』を生きるスキルが高い人は、例外なく輝いて見える

ということです。

そして、こんな風に輝いて見える人、こんな風に人を惹きつけられる人は、どんな分野でも成功すると思います。逆に言うと、このスキルがないと成功できないのではないかと思ってしまうほどですね。

## 2. 二つのステップ

「どうやれば、過去や未来に対する負の感情にとらわれず、『今ここ』を生きられるようになるんですか？」

という疑問が出てくるとはと思いますが、これは、ちゃんとした戦略的思考が必要になってきます。

先ず、『常に今ここ』は無理ってこと。今ここ今ここ言ってますが、24時間365日ずっと、『今ここ』で生きられるわけではありません。それは人間じゃないと思います。僕が言ってるのは、その人にとっての“ここぞ！”という場面に於いて、どれだけ『今ここ』のクオリティを高められるかどうか、という話なんです。

パフォームであれば、まあ色々あるとは思いますが、今回僕が垣間見たライブはもろに、彼女たちにとって“ここぞ”の場面ですね。僕の場合だと、例えばこのレポート執筆とか、セミナーとかもそうだし、とにかく立ち上げるすべての企画がその対象になります。

だから僕等の仕事は、

これらの中で『今ここ』を体現すること、そして、関わって  
くれる出来るだけ多くの人にも『今ここ』を伝染させること、

だと言えます。

これを高いクオリティで成すことが出来るようになったときはじめて、ライフワークは、“ライブ”ワークに昇華するんだと思います。

『今ここ』を発揮すべき場面は、人それぞれ違うと思いますがとにかく、

自分が本領を発揮すべき“ここぞ”という場面はどこか？

を知ることが、最初のステップになりますね。

それを知ったら、

## “そのために普段から出来ることは何か”

を見極めること。

これが次のステップになると思います。パフュームなら、例えば、ダンスの練習がそれにあたるはずですよ。ここは、絶対に手を抜けないところでしょう。僕なら、例えば、体験を“ネタ化”するためのアンテナを常に張っておくことがそれに当たります。

仕事だろうがプライベートだろうが関係なく、自分が見て体験して感じたことから何かしらの学びを見い出すことです。それを他の人でもわかるように言語化し、定義化し、メソッド化し、一つのコンテンツとして提供できる形にするのが僕の仕事になってくるので、最初の“体験から学びを見出す”、ここは僕にとって、絶対に手を抜けない、抜いてはいけないところなんです。

要するに、ここぞという場面で、『今ここ』のクオリティを最大限発揮するための準備です。ここぞという場面で『今ここ』を精一杯生きる。さらに、己の『今ここ』に他人を巻き込み、空間を『今ここ』で埋め尽くす。これは、日頃からの努力なしでは絶対に叶わないということですね。

だから、「スキル」だと言ってるわけです。

とにかく、この2ステップさえ押さええていれば、“ここぞ”という場面で、最高の『今ここ』を生きられるはずです。

## 『今ここ』を生きるスキル

これがあると、人生が100倍充実すること請け合いです。少なくとも、AUNには好かれるみたいですよ（笑）。



### 3. B'z が長期的に売れている理由

「手を抜かない」ということを、さっき少し強調して言ったのですが、ここは凄く重要なんですよ。でも悲しいかな、多くの人が、「うんうん、そだね」とか言って結局流してしまう部分だとも思うので、ちゃんと理解してほしいと思います。

この「手を抜かない」というのは、

『今ここ』を生きられる人間になるために重要な“資質”の

一つ

なのですから。

以前、僕が敬愛する B'z が、結成 20 周年の年に放送されたテレビの特集で描かれた姿が、強烈に心に残っています。これをシェアすることで、“手を抜かない”ことの大切さをわかってもらえるはずです。

...

「どうして、ここまで長期的に売れ続けることができているんでしょうか？」インタビュアーのこの質問に対する彼らの答えはこうでした。

稲葉氏：「“手を抜いてない姿を見せる”というのをテーマでやっているところがあるので、そこが（ファンに）伝わってれば何らかの結果は出て来るんじゃないかなとは思ってますね」

・・・シビレました。謙虚な言葉で綴られてはいますが、しかしそれが100%の本心だということが、その後映し出された彼のストイックな姿からわかりました。

松本氏:「感覚かな、野性の勘ですよ。『これはイケる!』っていう・・・。」

・・・ちょっと意味がわからないというか（苦笑）、彼は天性のものなのかなあと思ったのですが、その後映し出された彼のストイックな姿を見て、やはり努力なしでは成し得なかったんだということがわかりました。

稲葉氏に関しては、喉の乾燥を防ぐために極力エアコンにはあたらず、加湿器を常備し、夏でも喉に良い温かいハーブティーを飲む姿。酒や煙草は口にせず、毎日ランニングや肺活量を増やすトレーニングを欠かさない姿。

「稲葉さんの肩書は何なんですか？」と訊かれたとき彼は、自分の肩書きをアーティストでもミュージシャンでもなく、「B'zのシンガーです」と答えました。どれだけの売上を記録し、社会的地位や莫大な富を得ても、「B'zのシンガー」としてステージに立ち続けるために

## “手を抜かない”

自分を貫いているわけです。

松本氏に関しては、ライブ前のリハーサル期間にホテルの部屋にこもり、一人で8時間以上ギターの練習をする。その日の昼飯はカップ麺。昼飯を食べる時間すら勿体無いという思い。作曲では、ある曲のわずか2小節、約5秒間のギターソロを完成させるのに1ヶ月以上かけてしまう。とことんこだわる姿勢。自分の納得がいくフレーズに仕上がるまで考え、弾き続け

る。

そこで彼が言った一言がまたシビれます。

「細かいニュアンスの違いとか、聞いている人は違いはわからないかもしれないけど、自分が納得いくものを出せば、製品として問題ないと思う」

彼にとって“手を抜かない”というのは、

## 自分を裏切らないための、最低限の、自分に対する態度

なんだということがわかりました。

彼らのようなビッグな成功を収めている人ほど、“手を抜かない”ということ徹底してる。自分の使命に対する“自覚”のレベルが違う。

余談ですが、僕は小学校6年生くらいから B'z が好きで、聴き続けてもう23年くらいになります。この特集を見たとき、自分が長いこと B'z ファンで居続ける理由がなんとなくわかった気がしました。

楽曲が好きなのは当然として、僕は、その楽曲の中に宿ったある種の“哲学”を感じていたのだと思います。そして、そこに“美しさ”を見ていたのだと思います。そこを意識して見ていたわけではないけれど、それを常に感じ取れていたのは、紛れもない“常に手を抜かない”姿勢が100%反映された彼らの作品（楽曲）に触れていたからでしょう。

僕の人生の指針となっている“美意識”のベースは間違いなく彼らですね。

だから、ここぞという場面で手を抜いてる奴を見ると瞬間的にカッコ悪いと感じるし、好きになんて絶対なれない。手を抜いてる感じに振る舞ってスカしてる奴も一緒。てことはあれですね。自分自身、真剣こいてやる場面で手え抜いちちゃったりなんかすると、自分のことが嫌いになってしまうってことですね。

とにかく、理解してほしいのは、手を抜いて生きて、何か気持ちのいい結果を得ようなんて、これはもう正気の沙汰ではないということです。

余談ついでですが、facebook やブログなんかを、ビジネスをやる上での一つのメディアとして利用する場合、“手を抜いていない自分”を見せるだけでいいと思います。特に自慢できるような体験なんてしてなくてもいいんですよ。その方が、意味があるのかないのかわからない気持ちの悪い「リア充自慢」投稿するよりも、ずっと有意義で人の励みになるはずですよ。

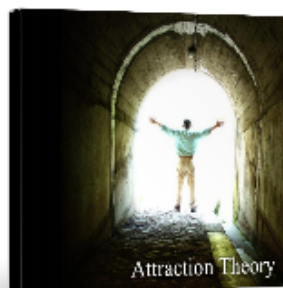
学んだことから感じとったこと、感動した出来事から学んだこと、葛藤から見出したポジティブな答え、なんでもいいので、あなたなりの、“手を抜いていない姿”を見せていきましょう。

そうすることで、あなたは人を巻き込んでいくことが絶対にできますから。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

Arigato!★Aun

★このレポートを読まれたあなたにお勧めの製品



**Attraction Theory—フトコの魅力構築理論—**

魅力って何だろう？

魅力がもたらす現実とは？

魅力の本質はどこにあるんだろう？

魅力はどうすれば手に入るんだろう？

……自分だけの魅力を発掘し、手に入れ、活用するための方法論を全て、極めて具体的に語りました。

「魅力がなくて飯が食えるか。」 byAUN

▶ [製品の詳細はこちら](#)

※こちらは男性向けのコンテンツです。